

令和 2 年度 事務事業マネジメントシート

| 事業の基本情報 | | | | |
|---------|--------------------|----------------------|-------|----------|
| 事務事業名 | 小学校 I C T 教育環境整備事業 | 担当課 | 学校教育課 | |
| 総合計画 | 政策 | こころ豊かに暮らせるまち | 計画期間 | 平成 6 年度～ |
| | 施策 | 学校教育の充実 | 種別 | 任意的事務 |
| | 基本事業 | 時代の変化や国際化に対応できる教育の推進 | 市民協働 | その他 |
| 予算科目コード | 01-100202-04 単独 | 根拠法令・条例等 | | |

| なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？ | |
|--|--|
| 背景（なぜ始めたのか） | 内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） |
| <p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、児童の学習意欲を高め、思考を深め表現力を広げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p> | <p>タブレットを有効に活用するための授業支援、教職員がタブレットを活用するために必要なスキルを身につけるための研修を計画・実施する。</p> <p>教育用ソフトを効果的に導入することで、児童の学習に対する興味関心を高めるとともに、学力向上につなげる支援の一つとする。</p> <p>校務用パソコン、教育用タブレットパソコン、電子黒板等機器管理を行い、教職員の授業や校務が円滑に進むよう支援する。</p> <p>校務支援システム、オンライン学習、インターネット接続環境等の維持を図ることで、教職員の働き方改革、コロナウイルス感染症による不測の事態に備える。</p> |
| 目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか） | |
| <p>高度情報化社会の進展に対応した学習環境を整備し、児童の学習意欲や思考力、表現力の向上を図る。また、一人1台のタブレット端末環境を有効に活用し、新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン学習、ペーパーレスによる費用削減及び校務の負担軽減を図る。</p> | |
| （参考）基本事業の目指す姿 | |
| <p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p> | |

| 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか） | |
|---|---|
| 目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定） | 具体的内容とスケジュール |
| <p>I C T 教育環境を有効活用するために、教職員の I C T 機器等に關する活用能力向上が更に必要となっている。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>I C T 機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p> | <p>I C T 支援員と連携を図り、年間を通じて教職員の I C T 機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施する。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット等の I C T 機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行う。</p> |
| 改善内容（課題解決に向けた解決策） | |
| <p>導入した I C T 機器を教育環境を最大限に活用し、教職員の児童に対する指導能力の向上を図る。</p> <p>リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p> | |
| 次年度のコストの方向性（→その理由） | |
| <p><input type="checkbox"/> 増加</p> <p><input type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p> | |

| R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り） | |
|---|--|
| R01年度の評価（課題） | R02年度の取組（評価、課題への対応） |
| G I G Aスクール構想に向け、本市にとって教育的効果が見込める活用法を検討するため、先進地視察などを行った。 校務支援システムの稼働を開始し、教職員の事務処理の効率化を図り、働き方改革を促進する。 | 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、G I G Aスクール構想が前倒しとなり、児童への一人1台端末の整備、端末運用のための校内ネットワークの整備を開始した。 G I G Aスクール構想に向けた端末の活用法についても研修会を実施し、できるところから活用を始めた。 現状のICT環境は継続的に活用し、学力向上に結びつく活用法について更なる研修会等を実施した。 |

| 評価（指標の推移、今後の方向性） | | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------|-------|-------|----------|
| 指標名 | 基準値（H26） | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R01年度 | R02年度 | 目標値（R03） |
| 児童用コンピュータ整備数（児童数／台数）（人） | 9.60 | 3.10 | 3.10 | 3.10 | 3.10 | 1.00 | 1.00 |
| | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果の動向（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下 | G I G Aスクール構想実現に向けたタブレット端末、校内ネットワーク環境整備が順調に進んでおり、整備前から進めていたクラウドサービスの活用も合わせ、守谷型G I G Aスクール構想を開始することができた。 次年度に向けて、各整備を継続的に進め、よりスムーズな運用、活用が行えるよう進めていく。 | | | | | | |
| 今後の事業の方向性（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持 | <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 | 従来から整備していた全児童への1／3台の端末の更新、教員用タブレット端末を整備する必要がある。 タブレット端末以外にも授業支援システム、WEBフィルタリング（セキュリティ対策）、デジタル教科書の整備、高速インターネット回線への切替え及び専門人材を増員して運用保守体制を構築して児童、学校が安心安全に、ICT機器を有効活用できる環境を構築していく必要がある。 | | | | | |

| コストの推移 | | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 項目 | H30年度決算 | R01年度決算 | R02年度決算 | R03年度予算 | R04年度見込 | |
| 計 | 140,349 | 133,737 | 429,858 | 247,097 | 247,097 | |
| 事業費 | 国・県支出金 | 0 | 0 | 1,004 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 | 58,200 | 0 | 0 |
| | その他 | 25,284 | 0 | 182,694 | 101,802 | 0 |
| | 一般財源 | 115,065 | 133,737 | 187,960 | 145,295 | 247,097 |
| 正職員人工数（時間数） | 114.00 | 380.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| 正職員人件費 | 476 | 1,559 | 0 | 0 | 0 | |
| トータルコスト | 140,825 | 135,296 | 429,858 | 247,097 | 247,097 | |

令和 2 年度 事務事業マネジメントシート

| 事業の基本情報 | | | | |
|---------|------------------|----------------------|-------|----------|
| 事務事業名 | 中学校 ICT 教育環境整備事業 | 担当課 | 学校教育課 | |
| 総合計画 | 政策 | こころ豊かに暮らせるまち | 計画期間 | 平成 6 年度～ |
| | 施策 | 学校教育の充実 | 種別 | 任意的事務 |
| | 基本事業 | 時代の変化や国際化に対応できる教育の推進 | 市民協働 | その他 |
| 予算科目コード | 01-100302-04 単独 | 根拠法令・条例等 | | |

| なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？ | |
|---|--|
| 背景（なぜ始めたのか） | 内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） |
| <p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、生徒の学習意欲を高め、思考を深め表現力を上げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p> | <p>タブレットを有効に活用するための授業支援、教職員がタブレットを活用するために必要なスキルを身につけるための研修を計画・実施する。</p> <p>教育用ソフトを効果的に導入することで、生徒の学習に対する興味関心を高めるとともに、学力向上につなげる支援の一つとする。</p> <p>校務用パソコン、教育用タブレットパソコン、電子黒板等機器管理を行い、教職員の授業校務が円滑に進むように支援する。</p> <p>校務支援システム、オンライン学習、インターネット接続環境等の維持を図ることで、教職員の働き方改革、コロナウイルス感染症による不測の事態に備える。</p> |
| 目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか） | |
| <p>高度情報化社会の進展に対応した学習環境を整備し、生徒の学習意欲や思考力、表現力の向上を図る。</p> <p>情報を主体的に選択し、活用するための能力を育成する。</p> <p>また、一人 1 台のタブレット端末環境を有効に活用し、新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン学習、ペーパーレス化による費用削減及び校務の負担軽減を図る。</p> | |
| （参考）基本事業の目指す姿 | |
| <p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p> | |

| 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか） | |
|---|---|
| 目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定） | 具体的内容とスケジュール |
| <p>ICT 教育環境を有効活用するために、教職員の ICT 機器等に關する活用能力向上が更に必要になってくる。すべての教職員が積極的に活用することができるようにするための支援が大切である。</p> <p>ICT 機器を活用するための環境整備に関する経費が年々増加している。</p> | <p>ICT 支援員と連携を図り、年間を通じて教職員の ICT 機器の有効活用に向けてのサポートや教職員の資質向上を図るための研修を実施する。</p> <p>計画訪問、要請訪問等でタブレット等の ICT 機器を活用した授業を実践し、活用に関する指導・助言を行う。</p> |
| 改善内容（課題解決に向けた解決策） | |
| <p>導入した ICT 教育環境最大限に活用し、教職員の生徒に対する指導能力の向上を図る。</p> <p>リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p> | |
| 次年度のコストの方向性（→その理由） | |
| <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減 | |

| R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り） | |
|---|--|
| R01年度の評価（課題） | R02年度の取組（評価、課題への対応） |
| G I G Aスクール構想に向け、本市にとって教育的効果が見込める活用法を検討するため、先進地視察などを行った。 校務支援システムの稼働を開始し、教職員の事務処理の効率化を図り、働き方改革を促進する。 | 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、G I G Aスクール構想が前倒しとなり、生徒への一人1台端末の整備、端末運用のための校内ネットワーク環境の整備を開始した。 G I G Aスクール構想に向けた端末の活用法についても研修会を実施し、できることから活用を始めた。 現状の I C T環境は継続的に活用し、学力向上に結びつく活用法について更なる研修会等を実施した。 |

| 評価（指標の推移、今後の方向性） | | | | | | | |
|---|---|--|-------|-------|-------|-------|----------|
| 指標名 | 基準値（H26） | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R01年度 | R02年度 | 目標値（R03） |
| 生徒用コンピュータ整備数（生徒数/台数）（人） | 6.10 | 2.90 | 2.90 | 3.00 | 3.00 | 1.00 | 1.00 |
| | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果の動向（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下 | G I G Aスクール構想実現に向けたタブレット端末、校内ネットワーク環境整備が順調に進んでおり、整備前から進めていたクラウドサービスの活用も合わさり、守谷型G I G Aスクール構想を開始することができた。 次年度に向けて、各整備を継続的に進め、よりスムーズな運用、活用が行えるよう進めていく。 | | | | | | |
| 今後の事業の方向性（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持 | <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 | 従来から整備していた全生徒への1/3台の端末の更新、教員用タブレット端末を整備する必要がある。 タブレット端末以外にも授業支援システム、WEBフィルタリング（セキュリティ対策）、デジタル教科書の整備、高速インターネット回線への切替え、専門人材を増員して運用保守体制を構築して生徒、学校が安心安全に、I C T機器を有効活用できる環境を構築していく必要がある。 | | | | | |

| コストの推移 | | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 項目 | H30年度決算 | R01年度決算 | R02年度決算 | R03年度予算 | R04年度見込 | |
| 事業費 | 計 | 65,355 | 62,364 | 190,386 | 116,227 | 116,227 |
| | 国・県支出金 | 0 | 0 | 446 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 | 24,600 | 0 | 0 |
| | その他 | 10,653 | 0 | 80,098 | 43,630 | 0 |
| | 一般財源 | 54,702 | 62,364 | 85,242 | 72,597 | 116,227 |
| 正職員人工数（時間数） | 59.00 | 344.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| 正職員人件費 | 246 | 1,411 | 0 | 0 | 0 | |
| トータルコスト | 65,601 | 63,775 | 190,386 | 116,227 | 116,227 | |

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

| 事業の基本情報 | | | | |
|---------|-----------------|----------------------|------|---------|
| 事務事業名 | 外国語教育推進事業 | 担当課 | 指導室 | |
| 総合計画 | 政策 | こころ豊かに暮らせるまち | 計画期間 | 平成13年度～ |
| | 施策 | 学校教育の充実 | 種別 | 任意的事務 |
| | 基本事業 | 時代の変化や国際化に対応できる教育の推進 | 市民協働 | その他 |
| 予算科目コード | 01-100103-04 単独 | 根拠法令・条例等 | | |

| なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？ | |
|--|--|
| 背景（なぜ始めたのか） | 内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） |
| <p>国際化が進展し国際理解の必要性や国際社会で活躍できる人材育成が求められる中、充実した外国語教育を推進することをねらい、中学校への外国語指導助手（ALT）の派遣が開始された。本市では平成13年度から他自治体に先駆けて全小中学校に配置している。令和2年度から小学校5・6年生で外国語科として教科化、3・4年生で外国語活動が開始となった。本市では、平成23年度に文部科学省教育課程特例校の指定を受け、独自の外国語教育を推進している。</p> | <p>外国語教育を推進するため、市内小中学校に19人のALTを配置し、業務を委託する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、小学校1・2年生の英語活動、小学校3・4年生の外国語活動、教科化され授業時数も増加した小学校5・6年生の外国語科の全ての授業にALTが参加し児童とコミュニケーションを図る。大規模校2校にはALTを2人配置する。 ・中学校では、生徒一人一人の言語活動を充実させるため、全中学校にALTを2人ずつ配置する。 ・授業以外にも、給食を一緒に食べたり、休み時間等を共に過ごしたりすることで国際教育の充実を図る。 ・中学校では放課後の時間を活用し、より英語に親しむ時間を定期的に確保し、生徒の英会話力の向上を図る。 ・学校休業日に英語に親しむ機会を提供（イングリッシュキャンプ、ALTと遊ぼう）し、児童生徒の学習意欲の向上を図る。 |
| 目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか） | |
| <p>「英語で発信し合える児童生徒」の育成を目指し、小中学校の系統性を重視した外国語教育及び国際教育を推進する。</p> <p>小学校1年生及び2年生に「英語活動」を設定し、9年間を見通した市独自の外国語教育を推進する。中学校では、生徒自ら意欲的に英語を活用しながら、自分の気持ちや考えを伝えるコミュニケーション能力を高める。小中学校ともに英語を母国語とする外国人との日常的な触れ合いを通して、国際教育の充実を図る。</p> | |
| （参考）基本事業の目指す姿 | |
| <p>グローバル化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p> | |

| 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか） | |
|---|--|
| 目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定） | 具体的内容とスケジュール |
| <p>本年度（令和2年度）の小学校新学習指導要領の完全実施による授業数の増加、来年度（令和3年度）の中学校新学習指導要領の実施を受けた守谷市独自のカリキュラムの整備を行っているところである。</p> <p>話すこと（スピーキング）の評価もより一層重視されることから、特に中学校において、生徒の自己表現（パフォーマンス）を指導し評価する機会を増やすことが課題となっている。</p> | <p>授業参観を主とした研修を、今年度は2回実施する。</p> <p>全小学校で、教職員の指導力及び英語力向上を目的とした校内研修を、放課後の時間を活用し、委託会社と連携して実施し、授業力向上を図る。（7月から12月）</p> <p>市教委主催によるイングリッシュ・フォーラムを開催し、小学生はスピーチプレゼンテーション、中学生はプレゼンテーションを発表する機会を設定し、より外国語による発信力を向上させる。（2月）</p> <p>定期的にALTミーティングを開催し、ALTの資質向上を図るとともに、情報共有を図ることで各校における指導の統一を図る。（年7回）</p> |
| 改善内容（課題解決に向けた解決策） | |
| <p>新学習指導要領の実施に向けた研修や授業研究を、教師とALTが合同で行い、小学1年生からの外国語教育の学びの連続性を確認し、継続的に授業改善を行っている。</p> <p>授業者とALTの業務上の連携に関して、小学校では学校ごとに外国語の授業の指導力や英語力を高める校内研修を、委託会社と連携して実施する。</p> | |
| 次年度のコストの方向性（→その理由） | |
| <p><input checked="" type="checkbox"/> 増加</p> <p><input type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p> | <p>外国語教育は、守谷の学校教育の特色の一つである。今後も事業を継続していきながら、特に課題となっている中学校において、生徒が英語で自己表現をする際に、何度もチャレンジしたり、個別指導を受けたりする機会を充実させ個別最適化学習を促進するため、コストを増加する。</p> |

| R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り） | |
|---|---|
| R01年度の評価（課題） | R02年度の取組（評価、課題への対応） |
| <p>小学校高学年の教科化に伴う授業時数増やALTとの外国語の授業へのニーズが高まる中、大規模の小学校においては外国語の授業全てにALTがかかわることがむずかしくなることが想定される。そのため、大規模の小学校へのALTの複数配置を図ることで、これまでのALTとの外国語の授業の質が保たれると考える。</p> | <p>今年度から、各中学校のALT配置を1名から2名に増員することにより、外国語に係る全授業にALTが参加することができ、英語ネイティブスピーカーが児童生徒と英語でやり取りする機会の充実を図った。また、教職員がALTと共に授業を行うための英語力や指導力向上を目指した校内研修を全小学校で実施したり、ALT同士のアイデアを生かした英語による小小・小中交流学习を行った。</p> |

| 評価（指標の推移、今後の方向性） | | | | | | | |
|---|--|--|-------|-------|-------|-------|----------|
| 指標名 | 基準値（H26） | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R01年度 | R02年度 | 目標値（R03） |
| 英語活動・外国語活動を「楽しい」と感じている児童の割合（%） | 0.00 | 91.00 | 92.00 | 89.20 | 90.40 | 91.20 | 0.00 |
| 中学校3年時における英語検定3級以上の取得率（%） | 0.00 | 39.60 | 45.00 | 51.00 | 52.10 | 47.89 | 0.00 |
| 成果の動向（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下 | <p>「英語活動・外国語活動を楽しい」と感じている児童の割合が増加した。中学校3年生の実用英語検定取得率はコロナ禍であり、各中学校を会場とする受検を見送ったため受検者が減少し、取得率も下がった。教職員とALTによる指導力や英語力を向上させることを目的とした校内研修や、児童生徒が英語を発表したりやり取りしたりする機会となる市独自の取組により、外国語の授業が充実するだけでなく、英語に係るコンテスト等に積極的に参加する児童生徒が増えた。ALTとの関わりを通して、学校外の英語の行事に参加したり、資格試験に挑戦したりする児童生徒は増加している。</p> | | | | | | |
| 今後の事業の方向性（→その理由） | | | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持 | <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 | <p>中学校の新学習指導要領の完全実施となり、小中学校において児童生徒の自己表現活動を十分にを行い、英語を活用しながら学習を深める重要性が増している。そのためには、特に中学校において英語ネイティブスピーカーを複数配置し、ALTとのやり取りや指導を通して、児童生徒の外国語の習熟を図ることが必要である。</p> | | | | | |

| コストの推移 | | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 項目 | H30年度決算 | R01年度決算 | R02年度決算 | R03年度予算 | R04年度見込 | |
| 事業費 | 計 | 58,209 | 68,099 | 84,975 | 89,891 | 89,851 |
| | 国・県支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 58,209 | 68,099 | 84,975 | 89,891 | 89,851 |
| 正職員人工数（時間数） | 465.00 | 528.00 | 671.00 | 0.00 | 0.00 | |
| 正職員人件費 | 1,941 | 2,166 | 2,716 | 0 | 0 | |
| トータルコスト | 60,150 | 70,265 | 87,691 | 89,891 | 89,851 | |